

月報

92号

発行所

青丘文庫

編集・発行★韓哲庵
〒654 神戸市須磨区須磨寺町4-3-1
メゾンD青丘ビル2F
TEL (078) 734-5989
FAX (078) 735-0660

朝鮮民族運動史研究会

第一三三回例会
青柳 純一

「趙素昂の抗日独立運動と三均主義」

脱冷戦時代にあたって、日韓両国では各々の社会に
応じた改革が進行中であり、今後は東アジア的視角を
模索していく必要があると思われる。

今回の発表ではこうした模索の一例として、趙素昂
の三均主義をとりあげ、その形成過程と中国における
韓国独立運動の中で果たした役割について検討した。

まず趙素昂が一九一〇年前後の日本留学期にうけた
様々な影響、ついで中国に亡命して3・1独立運動前
後に展開した活動、上海臨時政府への参加、さらにヨ
ーロッパでの外交活動の概略を振り返る。

一九二二年帰国した彼は、民族主義勢力の結集に努
める一方、社会主義勢力との共存・連合を追求し、三
均主義の基本内容を確認する。その内容は民族国家の
建設をめざした孫文三民主義とも共通する点が多いが
民衆運動の評価及び日本帝國主義への態度の点ではよ
り社会主義勢力に近い立場といえる。

一九三〇ねん、趙および金九、金料奉により韓国独
立党が結成されるが、尹奉吉事件後の日本の弾圧によ
り臨時政府ともども流職をよぎなくされる。そのため
彼らも離合集散を繰り返すが日中戦争の全面化により
韓国の民族主義勢力、社会主義勢力はそれぞれ独自に
連合戦線を形成、その双方の思想的基盤として三均主
義が作用したことが確認できる。やがて一九四〇年九
月に臨時政府は重慶に定着して光復軍を創建すること

で金九主席を中心に党一政一軍三位一体の体制が成立
趙素昂は外務部長に選任される。そして日米戦争の開
始直前に建國綱領を重慶時代の韓国独立党の党義を分
析すれば三均主義の概要が理解できるすなわち、政治
(普通選挙、人権尊重)―経済(土地、基幹産業国有
化)―教育(公費義務教育)の均等とともに人と人、
民族と国家の均等を主張して社会主義勢力との連合戦
線の追求を特徴とする具体的には一九四二年に金奎植
が臨時政府の宣伝部長をへて四四年四月には副主席と
なり、同時に金元鳳が軍務部長の要職について、重慶
臨時政府は連合政権の性格をおびる。また米国の信託
統治案に反対する趙素昂の外交活動を通して民族およ
び国家間の均等を要求する三均主義ゆえに米英の戦後
構想に反対する韓国臨時政府の公式承認が難しかった
ことが推察できる。

なお解放後の趙素昂は米ソ対立の狭間で南北分断を
憂慮するや「資本主義でも社会主義でもない」第三の
道を模索して南北連席会議に参加するが朝鮮戦争下で
北に連行され長い間消息がとだえてしまった。近年李
泰昊『鴨緑江の冬』(青柳純一訳、社会評論社)によ
り知らされた事実によれば趙は北でも平和統一運動に
尽力して一九五六年には南北の軍縮と中立化を訴えて
「在北平和統一促進協議会」を結成したという。そし
て「あらゆる均等に基づく進歩的民主主義を建設」す
るとの行動綱領を拝抄したがここでも南北の民衆から
隔離されたまま生涯をおえざるをえなかったのである
とはいえ、彼の三均主義は重慶臨時政府や中立化統一
論の再評価とともに南北分断のみならず東アジアの体
制的差違に橋を架ける思想として吟味される価値があ
るといえるよう。

日韓キリスト教史研究会第40回例会報告(1994年 1月22日)
「宣教師と105人事件」

李 省 展

韓国「併合」直後に日本帝国主義はキリスト教の弾圧に着手している。それは、組織的な民族勢力として、キリスト教が存在していたこと、教育においても主導的役割を担っていたこと等の理由による。植民地化を進めるにあたっての障害としてキリスト教勢力が立ちだかっていたからである。まず、「安岳事件」(1910年12月～翌年1月)で、安重根のいとこの安明根(カトリック)を始めとする、カトリック、プロテスタントの信者多数(160)が逮捕された。西間島の武官学校設立資金募金の容疑である。また同じ頃に「梁基鐸保安法違反事件」が捏造され、西北間島に独立軍基地をつくるための資金集めの嫌疑で、ソウルの新民会幹部多数が逮捕された。

このようにして、黄海道、ソウルのキリスト教系民族運動勢力の弾圧に成功した日帝は、平安道弾圧を画策、寺内総督の平安南北道巡視時(1910年12月)の暗殺未遂事件を捏造した。1911年9月～翌年3月まで600余名が逮捕され、123名が起訴され、105名が一審で有罪判決を受けた。105人中、91名がプロテスタント信者で、2名がカトリック教徒である。起訴者123名中、31名が教師で、主に信聖、崇實等のキリスト教系学校の教師である。また、20名が学生で、そのうち18名が信聖学校の学生であることからして、教会に対する弾圧と同時に、これはキリスト教学校に対する弾圧でもあったといえる。またこの事件には当初、マッキューン、アンダーウッドを始めとする、24名の宣教師がこの陰謀にかかわったという嫌疑を受けたため、宣教師のネットワークを通じて国際的な事件へと発展した。A. J. Brown 資料には在朝鮮宣教師と宣教本部との書簡、ブラウンからの寺内総督、駐米大使の珍田、一等書記官の埴原への書簡、諸外国の新聞記事等が収められている。

資料によると、宣教師側は、逮捕者の性格からして暗殺容疑の合理的説明がつかないと主張するとともに、治外法権無視の捜査、拷問の事実をいち早く報告している。また学校との関連では、信聖中学では教師が全員逮捕されたので、初等学校、女子校から教師を派遣しかろうじて運営している事実、嘉明学校では学生の激減と学校関係者の逮捕のより、運営資金が不足し、一時閉校した事実を報告している。また裁判に関しては、取り調べの長期化、通訳の不正確さ(勝手に表現を和らげる)、アリバイを立証する証人が採用されないこと、拷問による自白を根拠としていることなどを挙げ、批判している。また総督府と宣教本部との交渉では、政治状況(「併合」)を既成事実として受け入れ、服従するよう指導してきたこと、また政治的扇動者の影響除外に務めてきたとし、温厚柔順なキリスト者がこのような陰謀に加わるはずがない、拷問によるでっち上げではないかという主張を展開している。これに対し、総督府側は「併合」後、非キリスト者の政治運動が鎮静化しているのに反して、多数のキリスト者がこの事件に関与しているとし、宣教師側の指導力の欠如を指摘するとともに、拷問の事実を否定し、公平な裁判による処罰であると主張している。このような交渉経過と国際的な圧力により、宣教師は結果として不起訴処分になる。そして第二審では105名中99名が無罪となった。

この事件で宣教師は、政治権力関係(日帝支配)の認知(Royal Recognition)を基本政策として再確認する一方、「抑圧され、絶望している朝鮮人に応じたキリスト教形成に尽くす」ことを決心している。「日本人は武力的で、野望に満ち、全てを支配しようとしているが、それに合う日本のキリスト教があり、朝鮮のキリスト教はこれに合わせることはできない」。

このほかブラウン資料には、セブランス病院の被拷問者の診察記録、検閲を逃れるための宣教師の緊急暗号などが所収されているのが注目される。また教会と総督府の葛藤を明らかにする数多くの宣教師の報告が所収されており、その中でも「御真影」をめぐる諸事件が注目される。

新着図書御案内

- | | |
|---|---|
| The Reluctant Crusade | James Irving Matray |
| THE ORIGINS OF THE KOREAN WAR
AT THE COURT OF KOREA | Bruce Cumings
William Franklin Sands |
| MEMOIRS OF A KOREAN QUEEN
Sharmans, Housewives, and Other Restless Spirits | Lady Hong
LAUREL KENDALL |
| A KOREAN VILLAGE
POLICY AND DIRECTION THE FIRST YEAR
MILITARY ADVISORS IN KOREA KMAK IN PEACE AND WAR
SOUSE KOREA VIOLATIONS OF HUMAN RIGHTS | Vincent S.R. Brandt
James F. Schnabel
Major Robert K. Sawyer |
| Japanese Sources On Korea in Hawaii
Diplomacy of Asymmetry: KOREAN AMERICAN
RELATIONS TO 1910
Human Rights in Korea
OFFSPRING OF EMPIRE: The Kocha
ng Kims and the Colonial Origins
of Korean Capitalism,
THE DAY THE CHINESE ATTACKED KOREA, 1950
ASIANS AND PACIFIC ISLANDERS IN THE UNITED STATES
THE POLITICS OF ANTI-JAPANESE SENTIMENT IN KOREA
THE CULTURE OF KOREAN INDUSTRY
WEST GOES EAST
THE KOREAN FRONTIER IN AMERICA IMMIGRATION TO HAWAII, 1896-19
10
ASIAN AMERICAN PANETHNICITY
ANCESTOR WORSHIP AND KOREAN SOCIETY | Minako Song, Masato Matsui
JONGSUK CHAY
WILLIAM SHAW
Carter J. Eckert
EDWIN P. Hoyt
HERBERT R. BARRINGER
SUNG-HWA CHEONG
CHOONG SOON KIM
YUR-BOK LEE
WAYNE PATTERSON
YEN LE ESPIRITU
ROGER L. JANELLI/DAWNHEE Y
NELLI
DEAN ACHESON
WILLIAM WHITNEY STUECK, Jr |
| THE KOREAN WAR
THE ROAD TO CONFRONTATION | |
| THE KOREAN WAR
THE RUSH TO DEVELOPEMENT
THE ORIGINS OF THE KOREAN WAR
KOREAN-AMERICAN RELATIONS
MATERIALS ON KOREAN COMMUNISM 1945-1947
NEW GOD, NEW NATION
KOREAN CHALLENGES AND AMERICAN POLICY
THE RELUCTANT CRUSADE
CULTUARL NATIONALISM IN COLONIAL KOREA
THE CONFUCIAN TRANSFORMATION OF KOREA
NEW URBAN IMMIGRANTS
EAST ASIAN REGION
KOREA: THE WAR BEFOR VIETNAM
KOREA: OLD AND NEW A HISTORY
THE WINDS OF CHANGE | BURTON I. KAUFMAN
MARTIN HART LANDSBERG
PETER LOWE
SCOTT S. BURNETT
CHONG-SIK LEE
KENNETH M. WELLS
ILPYONG J. KIM
JAMES IRVING MATRAY
MICHAEL EDSON ROBINSON
MARTINA DEUCHLER
ILSOO KIM
GILBERT ROZMAN
CALLUM A. MACDONALD
CARTER J. ECKERT 他
DIANA YU |

◆新着図書御案内◆

- ・東洋社会年鑑 1993年
- ・東北地区朝鮮人革命闘争資料
- ・洪範図将軍
- ・八路軍抗日根拠地見聞録
- ・延辺人口研究
- ・建設模範自治省
- ・延辺朝鮮族自治州教育誌
- ・朝鮮義勇軍第1支隊史
- ・朝鮮族革命烈士
- ・六十青春尼 尼里
- ・決戦
- ・中国朝鮮族教育史
- ・中国朝鮮族抗日女
- ・中国朝鮮族移民紀
- ・朝鮮学論文集
- ・在遠の中国大地上
- ・朱徳海一生
- ・朝鮮民族の姓と本
- ・金日成 上
- ・金日成 下

東洋経済日報社

延辺人民出版社

国際文化出版

延辺大学出版部

吉林人民出版社

東北朝鮮民族教育

崔海岩

朴昌

延辺東北軍政大学

中国朝鮮族史

中国朝鮮族教育史

金在国

延辺人民出版社

北京大学出版社

延辺人民出版社

民族出版社

延辺人民出版社

朝鮮労働党

同右

◇研究公云御案内◇

日韓キリスト教史研究会 第四二回例会

一九九四年三月十九日〔土〕午後二時

報告者 趙載国民

テーマ 「在日大韓基督教会の統計表を読む」

合同研究会 一九九四年三月十三日(日)

△第一部▽

在日朝鮮人運動史研究会 第一六四回例会

時間 午後一時半～三時

報告者 佐野通夫氏

テーマ 「植民地支配と朝鮮」

△第二部▽

朝鮮民族運動史研究会 第一三四回例会

時間 午後三時半～五時半

報告者 飛田雄一氏

テーマ 「日帝下の小作争議」

※場所はいずれも青丘文庫にて